

# 飛び出せ 創造力！

## ——ありのままだからいい

第14回滋賀県施設・学校合同企画展 ing…～障害のある人の進行形～

第14回滋賀県施設・学校合同企画展

# ing…

前期 2017年12月2日(土)–24(日)

後期 2018年1月6日(土)–28(日)

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA  
〒523-0849 滋賀県近江八幡市永原町上16(旧野間邸)

左 橋本洋一「いも」(後期) 右 柿本健「自画像 before」(前期)



進行形  
ある人の  
障害の



- 滋賀県内24か所の福祉施設と2つの特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師と、NO-MAが合同で企画・展示
- 39人の日々の暮らしの中で制作した造形作品を、二期にわたりじっくりご覧いただける展覧会
- 会期中には出展者の制作を深く知る常設ワークショップを開催！

※関連イベント欄[4]をご参照ください。

※ 記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に招待券をお渡しできます。

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第14回滋賀県施設・学校合同企画展事務局

(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)



広報担当/山田、鈴木、松井

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp http://www.no-ma.jp

企画趣旨	<p>本展は、滋賀県内の障害のある人たちが作った作品を、滋賀県内24か所の福祉施設と2つの特別支援学校の職員、地域の造形教室の講師、ボーダレス・アートミュージアムNO-MAが実行委員会を組織し、企画・展示を行うものです。</p> <p>障害のある人の日々の生活に寄り添う人たちならではの目線で、独自の世界や表現を集めた本展は、39人の作者の作品を2期にわたりご紹介します。</p> <p>彼らの織り成すing(現在進行形)の表現は、私たちが結びつけ、あなたの目に触れ、つながりの中で変化していきます。本展を通して、今、ここにある創作への思いとそのまなざしを体感ください。</p>
展覧会名	第14回滋賀県施設・学校合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～
会期	前期：2017年12月2日（土）～12月24日（日） 後期：2018年1月6日（土）～1月28日（日）
開館時間	11：00～17：00
休館日	月曜日（ただし、祝祭日は開館し、翌日休館）、12月25日（月）～1月5日（金）
観覧料	一般200円（150円）、高大生150円（100円） ※（ ）内は20名以上の団体料金 中学生以下・障害のある方と付添者一名無料
主催	第14回滋賀県施設・学校合同企画展実行委員会 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA （社会福祉法人グロー [GLOW] ～生きることが光になる～）
後援	滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会
協力	一般社団法人近江八幡観光物産協会、社会福祉法人しみんふくし滋賀
助成	障害者芸術文化活動普及支援事業（厚生労働省補助事業）
出展施設	[前期] あそしあ、アトリエひこうきぐも、湖北まこも、さつき作業所、しあわせ作業所、滋賀県立近江学園、滋賀県立八日市養護学校、障害者支援事業所いきいき、杉山寮、能登川作業所、放課後等デイサービス第2ももスマイル、蛍の里 [後期] 伊香立の杜 木輝、おうみ作業所、救護施設ひのたに園、さくらはうす、滋賀県立野洲養護学校、信楽青年寮、社会就労センターあおぞら、ステップアップ21、にっこり作業所、バンバン、彦根学園、ふくらの森、みどり園、やまなみ工房
協力施設	滋賀県立信楽学園
アドバイザー	中野裕介（美術家・パラモデル）

**【関連イベント】** ※全て要予約、参加費は観覧料のみ**1. オープニングイベント**

展覧会の開催をお祝いするギャラリートークです。作者や支援者の声を聞き、思いに触れることで、作品に新たな表情が宿るかもしれません。

【前期】日時：2017 年 12 月 2 日（土）13:30～15:00

【後期】日時：2018 年 1 月 6 日（土）13:30～15:00

会 場：ボーダレス・アートミュージアム NO - MA

参加費：観覧料のみ

定 員：20 名（要予約）



※昨年度の様子

**2. 目の見えない人との作品鑑賞プログラム 「作品を手で見て、言葉にして、鑑賞する」**

目が見えない人、見えにくい人、見える人が一緒に、言葉や感触を通して作品を鑑賞しながら、作品の魅力を探します。

日 時：2017 年 12 月 10 日（日）13:00～16:00

会 場：NO-MA、第 3 区自治会館（近江八幡市博労町元 5）

講 師：三浦弘子氏（滋賀県立陶芸の森専門学芸員）

光島貴之氏（美術家）

参加費：観覧料のみ

定 員：20 名（要予約）

**■三浦弘子 プロフィール**

滋賀県生まれ。1991 年より滋賀県立陶芸の森の学芸員。おもに国内外の現代陶芸の展覧会を担当し、2015 年「土・祈り・イメージーション…岡本太郎の言葉とともに展」で縄文土器や民俗芸術、障害をもつ人たちや芸術家、陶芸家たちによる陶芸などを併せて紹介する展覧会を企画。同館にて“つちっこプログラム”を担当する。

**■光島貴之**

1954 年京都生まれ。10 歳の頃に失明する。80 年大谷大学哲学科卒業。82 年鍼灸院開業。92 年から粘土による造形活動を始め、95 年よりレトラライン（製図用テープ）とカッティングシートを用いる独自のスタイルで「触る絵画」の制作を始める。98 年、「'98 アートパラリンピック長野」大賞・銀賞を受賞する。その他、展覧会・個展、ワークショップ講師など多数。

**3. ing オープンアトリエ「ごちやまぜワークショップ」**

作者や支援者と一緒に「つくる」「表現する」を体験しませんか。何ができるか分からない、何ができたら分からない、未知なる自分に出会いましょう。

日 時：2018 年 1 月 21 日（土）14:00～16:00

会 場：酒游館（近江八幡市仲屋町 6）

参加費：無料 ※本展観覧券（半券）が必要です。

定 員：30 名程度（要予約）※ブースによって人数制限があります。

4. 常設ワークショップ ※予約なしでご参加いただけます。

前期は出展者の田中遥人さん、後期は山中俊雄さんの制作を深く知ることができるようなワークショップを体験できます。

※参考画像は作品紹介ページをご覧ください。

日 時：会期中の開館時間

会 場：ボーダレス・アートミュージアムNO—MA

参加費：観覧料のみ

※詳細やその他イベント情報は、NO—MAホームページでもご案内します。

イベントのご予約・お問い合わせはボーダレス・アートミュージアムNO—MAまで

[前期]作家紹介（一部）



「自画像 before」

制作年：2016 年

素材：画用紙、クレヨン

H1615×W380 mm

柿本 健 Kakimoto Takeshi

1967 年生まれ

意欲的な時は、真剣に取り組まれ、私たちの想像を超える程の様々な作品を作られます。さき織り、クリスマスのリース、書道、絵画等です。今回は、自画像の作品を出展しました。普段の活動で絵を描いて頂く機会があり、自由に描いてもらったところご自分の絵を描かれました。柿本さんにとって自分がこのように映っているのか、または理想の自分像を描かれたのか。柿本さんの感性をどうぞ感じてください。

（杉山寮/三矢雅幸）



「つるとかめ」

制作年：2016 年

素材：陶土、自然釉

H155×W125×D150mm

山口 琢巳 Yamaguchi Takumi

2000 年生まれ

近江学園の窯業科で自由造形を始めた時から、作品は「動物」であった。

作者は動物が大好きで、その中でもカメに対する思いは熱いようだった。小学生の頃からカメの飼育をしており、今でも毎週カメの世話を楽しみに自宅に帰省している。

そんな作者の作る作品には、カメを中心に動物に対する思いが滲み出ている。図鑑などを見ることはなく、頭の中に沸いたイメージを黙々と粘土で表現していく。また、細部まで実物に近づくようにこだわって作っていく。

ある時、作品を見た方から「こんなに細かい大変だったでしょう？」と声をかけられたことがあった。その時、作者の口からは自然と「楽しいですよ。」の一言と笑みがこぼれていた。自由造形が楽しいという気持ちと、見てもらえた喜びが伝わった瞬間だった。

今回出展した作品は、そんな作者が自由造形を始めた時の物である。作品展に来てくださる方に「見てほしい」という思いがこもっている。

（近江学園/西田恵子）

## [前期]作家紹介（一部）



「メメツのなかま」  
制作年：2017 年  
素材：コピー用紙、ペン  
H210×W297mm

田中 遥人 Tanaka Haruto

※常設ワークショップ作品

2003 年生まれ

彼と出会ったのは 9 年前。彼が保育園に通っている時である。その頃から絵は誰にも負けなかった。アンパンマン、バイキンマン、トムとジェリーなどのアニメキャラが好きでよく描いていた。

2011 年、突然そのアニメキャラではない棒人間を描きはじめた。彼の母親は A4 コピー用紙に描き続ける彼の作品を大切に保管し、2008 年、NO.1 から始まったファイルが 9 年間で NO.30 になった。

名も無き棒人間に目がつき、踊り始め、感情を持ち、2014 年 7 月 21 日、とうとうめめつという名前がついた。ひらがなの“め”が顔に変身し、手足をつけて「めめつ」と遥人さんは命名した。名前がつくと仲間もできた。しかも、「エ」の段。メメツ、ヘヘツ、ケケツ、テテツ、エエツ、セセツ、レレツ、ネネツ君たち。そしてある時は、めめつは自分の感情や自分の実生活として描かれる。

2015 年、手首を骨折した遥人さんが手術をされるリアルな光景もメメツで描かれている。学校で音楽会の練習をしている時期は、音楽の様子も描いている。

今までは、メメツの身体のみを描くことが多かったが、メメツ以外に建物や仕事をしていたり、意味づけした絵も描けるようになってきている。遥人さんのメメツは進化し続けている。まさに…ing なのである。

※2015 年よりめめつはメメツになった。

(放課後等デイサービス第 2 ももスマイル/福山かおり)



「エアリーゼット」  
制作年：2015 年  
素材：画用紙、クレヨン  
H390×W540mm

奥田 明 Okuda Akira

1970 年生まれ

普段はアルミ缶つぶしの作業をしたり、「本買いに行こー」「〇〇頂戴なー」と欲しいものや思ったことを口に出して要求を伝えに来る彼ですが、絵を描き始めた途端無口になり、ジッと画用紙を見つめて一心不乱にクレヨンで絵を描いていきます。

絵を描くという機会に触れてから、彼は自分が大好きな車をずっと描き続けてきました。しかし去年くらいから車の荷台に冷蔵庫を乗せたり、人の絵を描き始めたりと、少しずつ彼の絵に変化が見られ始めました。

なぜ彼がこれまでと違った車や人の絵を描くようになったのか…生活面の変化を見てみると、彼が好きな車の本を買いに行く（外出）が定期的になったことや夜間の睡眠が充分にとれるようになったなど、生活スタイルが落ち着いてきたことが背景にあると分かってきました。

最近では月に 1 枚絵を描くか描かないかというペースですが、以前よりも彼が描く絵に彼の心情がより強く表れているように思えます。

(あそしあ/藤原千秋)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。



## [後期]作家紹介（一部）



「いも」

制作年：2016 年

素材：画用紙、クレヨン

H270×W380mm

橋本 洋一 Hashimoto Yoichi

1948 年生まれ

69 歳の彼が描くもの。それは畑の作物だ。丸いものは「いも」、矢印のようなものは「ねぎ」である。畑は彼の生活にとって欠かせないものとなっている。“大人は仕事をするもの”と考える彼が自信をもって「自分の仕事」と胸を張れるのが畑仕事である。長年親しんできた畑仕事が制作動機となっており、造形の活動が始まると誰よりも早く描き始める。

畑に関わる際の彼は「ほんまはきらいやねん」と言いながらも、どこか得意げで上手に鎌などの道具を使い土の手入れなどを行っている。人と楽しく話すことが苦手な彼。普段は周囲に厳しい姿を見せることがあるが、畑仕事を褒められると笑顔がこぼれ、照れくさそうな表情を見せる。

発せられる言葉とは裏腹に、自信と誇りがそこにはあり、それらが紙一面にひろがっているのかもしれない。

(伊香立の杜 木輝/藤井美沙子)



「白頭の鷲」

制作年：2017 年

素材：段ボール、色紙、のり

H305×W235mm

 山中 俊雄 Yamanaka Toshio ※常設ワークショップ作品

1955 年生まれ

救護施設という限られた施設生活の中でも、自分なりに楽しみを見だし、日々活動的にすごしておられます。

今回の作品は、穴あけパンチで切り抜かれた○(まる)をふんだんに使い、いろんな作品を仕上げられました。

園では社会復帰棟での日中作業活動で忙しくされていますが、居室に戻ると、自分を表現するものは何かないかと、芸術作品作りも取り組んでおられます。

歌も大好き、園の行事も大好き、実は人がとても大好き、人生まだまだこれから、と太陽のように明るい、そんな山中俊雄氏です。

(救護施設ひのたに園/伊藤嘉文)

この資料の画像・テキスト等の著作権は、当ミュージアムや個人、協力団体に帰属します。

資料の情報を事前に許可なく、複製等の行為をすることはかたくお断りします。

[後期]作家紹介（一部）



「うま」

制作年：2017 年

素材：画用紙、クレヨン

H270×W380mm

奥長 茂子 Okunaga Shigeko

1956 年生まれ

これらの作品を描いたのは女性作家である。

彼女は言葉数が少なく、返答はいつも笑顔だ。

彼女は絵を描く時の多くは人物画だ。

彼女の人物画は女性らしい可愛さや、華やかさがある。

彼女の女性らしさを人物画以外で見たいと、そう感じた。

彼女に人物画以外を描くよう懇願する。

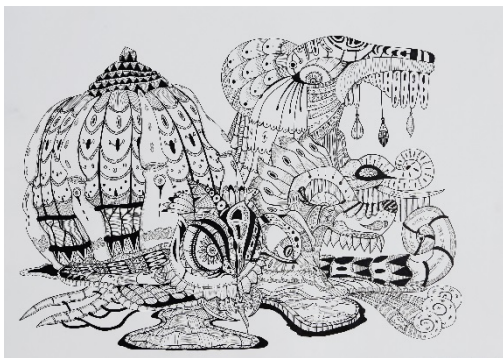
彼女は何も言わず、クレヨンを持ち気持ちよさそうに描馬した。

彼女は出来上がった絵を何も言わず笑顔で私に差し出す。

彼女の絵の世界をもっと見たい。

これらの作品を見てそう感じたのは私だけではないはずだ。

（ふくらの森/岸本拓真）



「サーカス」

制作年：2017 年

素材：紙、ペン

H767×W1087mm

吉田 楓馬 Yoshida Fuma

1994 年生まれ

彼が描いているのは彼の世界に生息している生物や世界の風景を切り取ったものが中心となっている。その画風は自身の感情や環境の変化によって異なり、感情に任せて描くものや、意識的に世界観を表出するものと様々である。

共通しているのは、それぞれに描かれている『目』が大きな意味を持っているということだ。例えば彼が生物図鑑のようなものだと語る作品は、目から描き始めそれが卵のような役割を担っている。目から生まれた生物たちは描かれる途中で形を変え、彼が最初にイメージしたものとは全く違うものが生まれることもあるという。また、物語のひとつの場面のような絵画は自身の感情や描いている時の不安感など負の感情が表出されているようである。画面に円を描いてあるような作品は、感情を主に題材としており、描かれた円は目や心臓や脳などの人間の重要な器官を表現している。

（やまなみ工房/牧原里佳）



## 第 14 回滋賀県施設・学校合同企画展

## 広報用画像の使用申込書

本展の広報用画像を 8 点ご用意しております。作家紹介の画像をご覧ください。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、F A X 又はメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、撮影者名（①②④⑤⑥⑦大西暢夫 or Onishi Nobuo  
※⑧は画像提供：やまなみ工房）を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事をご紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送り下さい。

媒体名：『 \_\_\_\_\_ 』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー

ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日： \_\_\_\_\_

御社名： \_\_\_\_\_

ご担当者名： \_\_\_\_\_

E メールアドレス： \_\_\_\_\_

@ \_\_\_\_\_

(〒 \_\_\_\_\_ )

ご住所： \_\_\_\_\_

お電話番号： \_\_\_\_\_

FAX： \_\_\_\_\_

ご希望の図版番号に○をおつけください。

[前期]

① 柿本 健 「自画像 before」

② 山口 琢己 「つるとかめ」

③ 田中 遥人 「メツのなかま」

④ 奥田 明 「エアリーゼット」

[後期]

⑤ 橋本 洋一 「いも」

⑥ 山中 俊雄 「白頭の鷲」

⑦ 奥長 茂子 「うま」

⑧ 吉田 楓馬 「サーカス」

プレゼント用ご招待券をご希望の場合は✓をおつけいただき、枚数をご記入ください（10 枚まで）（□ 枚）

お問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材

第 14 回滋賀県施設・学校合同企画展事務局

（ボーダレス・アートミュージアム NO-MA）



広報担当 / 山田、鈴木、松井

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837 番地 2

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～

Tel 0748-46-8100 Fax 0748-46-8228

E-mail kikaku@glow.or.jp